

しだれ梅



たわわに付いた梅の花

枝に付いた花を一つ一つ眺めていると

身を寄せ合って、寒さをしのいでいるようにも見えます。

「寒いなあ〜、春になったら何する？」

「外でおいしいものが食べたいなあ」

そんな会話が聞こえてきそうです。

梅の花には、

梅が香を 桜の花に 匂はせて

柳が枝に 咲かせてしかな

という歌があります。

この意味は、「梅の良い香りを桜の花に匂わせて、しなやかな柳の枝に咲かせたい。」望ましいものをひとところに集める、現実にはできない理想を詠んだものです。

ありふれた日常に、小さな幸せがたくさんあるのかもしれないですね。

(出典 後拾遺和歌集 中原致時)